

# 総合分野

授業科目	看護基礎セミナー	科目責任者	川上 勝	単位数	1.0	必修選択別	必修		
		学内調整者		時間数	30	受講セメスター	1年次 前学期		
学習目的と 到達目標	目的	大学で看護学を学ぶ基本を理解する							
	到達目標	1. 多様な年代の様々な立場にある人々の生き方を学ぶ。 2. 大学で学ぶことの基礎となるスタディ・スキルを習得する。							
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法							
1	大学での学び方	[講義] オリエンテーション 大学生活をどのように過ごすのか、高校と大学での学びの違い、大学で何を学ぶのか。							
2	大学での学び方	[講義] 大学で学ぶための健康管査を考える 健康とは、健康づくりに関する要因、看護職活動の環境の特徴、看護職としての健康管理について学ぶ。							
3	レポートの書き方を学ぶ	[講義] 適切なレポートの書き方 レポート作成の基本と留意点、レポートの例示を踏まえた適切なレポート作成方法を学習する。							
4・5	多様な年代の様々な立場にある人々の生き方を知る	[演習] 大学の教職員と1年生同士のコミュニケーション さまざまな知識や経験を有する大学の教職員や1年生同士の交流を通して、人々の生き方について知る。							
6	多様な年代の様々な立場にある人々の生き方を知る	[演習] セミナー担当教員と学生同士のディスカッション 自己紹介ならびにグループメンバーの状況を理解し、テーマ設定とグループディスカッションの運営方法、話し合う内容を焦点化して書籍やDVD等を検討する。							
7	図書館の活用方法を学ぶ	[演習] 大学図書館の機能と資料検索方法 オリエンテーションを受け、蔵書の分類方法と看護関連書籍の位置を確認する。また、情報メディアに触れ、資料検索方法のスキルを学習する。							
8～12	多様な年代の様々な立場にある人々の生き方を知る	[演習] グループディスカッション 選択した書籍やDVDを用いて、プレゼンテーションとグループディスカッションの計画を立案し実施する。プレゼンテーションでは資料を作成し、紹介したい内容について自己の考えを発表する。プレゼンテーション後は質疑応答と討論を行い、他者の考え方や学びを共有する。							
13	自分の意見や考え方をまとめる	[演習] グループでの学びと自己の考え方 グループの学びを通して感じたこと、自分の意見や考えをまとめる。							
14	まとめ	[演習] 作成したレポートの確認 これまで学んできた成果や大切な箇所等がレポートに活かされているか自分で確認する。さらに、教員からの助言や指導を活かし、再度レポートを点検する。							
15	評価								
教科書	なし	参考書等	「看護学生のためのよくわかる大学での学び方」前原澄子、金芳堂、2018年						
履修条件	なし		評価方法	1. グループディスカッション(50%) 2. レポート(50%) 3. 学習態度(減点法) 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する					
備考	大学でさまざまな知識や経験を持つ人たちと関わり、スタディ・スキルを通じて看護学を学ぶ基本を理解する。また、書籍やDVD等を活用してグループディスカッションを行い、自己と他者の考え方や価値観等を学ぶ。 グループごとで提示された教材の予習をしてセミナーに臨み、スタディ・スキルで学んだ内容については復習を行う。アクティブ・ラーニングを活用した講義・演習を展開する。 予習復習時間は12時間以上。								













授業科目	がん看護学	科目責任者	小原 泉	単位数	1.0	必修選択別	選択		
		学内調整者		時間数	1.5	受講セメスター	2年次 後学期		
学習目的と 到達目標	目的	がんが対象の生命や生活に与える影響を理解し、がんとともに生きる対象に必要な看護を学習する。							
	到達目標	1. がんおよびがん治療の特徴を理解し、がんが対象の生命や生活に与える影響を説明する。 2. 緩和ケアの概念を理解し、対象の苦痛を緩和する看護実践を説明する。 3. がんとともに生きる対象を理解し、対象の生活の質を高める看護実践を説明する。							
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法							
1	がんおよびがん治療の特徴と緩和ケア	[講義] がんの特徴、がんの診断や治療が対象の生命や生活に与える影響、および緩和ケアの概念について学習する。							
2	がん治療を受ける対象に必要な看護	[講義] がん薬物療法および放射線療法を受ける対象に必要な看護について、アビアランスケアを含めて学習する。							
3	がんとともに生きる対象の生活の理解と看護	[講義] がんとともに生きる対象の生活と必要な看護について学習する。							
4	がんとともに生きる対象の在宅療養への移行と継続に関する看護	[講義] がんとともに生きる対象の在宅療養への移行と継続に必要な看護について学習する。							
5	がんとともに生きる小児・AYA世代および高齢の対象の理解と看護	[講義] がんとともに生きる小児・AYA世代および高齢の対象の特徴と必要な看護について学習する。							
6	苦痛緩和と生活の質を高める看護(1): 症状緩和	[講義] がんに伴う症状(痛み、リンパ浮腫、倦怠感など)が患者の生命・生活に与える影響と必要な緩和ケアについて学習する。							
7	苦痛緩和と生活の質を高める看護(2): エンド・オブ・ライフ・ケア	[講義] 死の予期が対象(家族を含む)に与える影響、生き抜くことを支える看護、死別後の家族への看護について学習する。							
8	評価	レポート							
教科書	指定なし	参考書等	「がんサバイバーシップ - がんとともに生きる人びとへの看護ケア 第2版」近藤まゆみ・久保五月編著、医歯薬出版、2019年 「系統看護学講座別巻 緩和ケア(第3版)」恒藤暁・内布敦子編、医学書院、2020年						
履修条件	なし		評価方法	1. レポート(80%) 2. 学習態度(20%) 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する					
備考	臨地実習や卒後の看護実践の場で、がん患者を担当することが多いため、本科目を選択履習することでがんと共に生きる患者・家族に必要な看護について学習を深め、その後の実習や看護実践の場で学びを生かしていくことを期待する。予習や復習時間には23時間以上を必要とする。レポートテーマは後日提示する。								

授業科目	へき地の生活と看護	科目責任者	川野 亜津子	単位数	1.0	必修選択別	選択
		学内調整者		時間数	30	受講セメスター	1年次, 2年次 後学期

学習目的と到達目標	目的	へき地に住む人々の生活と看護の特徴を理解する。
	到達目標	1. へき地に住む人々の生活と健康との関連を説明する。 2. へき地における看護実践の機能と役割、地域の社会資源の整備状況を説明する。 3. 1と2からへき地における看護の特徴を説明する。

回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	オリエンテーション	【講義】オリエンテーション 学習目的、学習目標、学習方法、臨地演習施設の概要、科目の進め方、評価について学ぶ。	青木・川野
2	へき地と地域住民の生活の理解(1)	【講義・演習】へき地の意味を知り、臨地演習施設の地域や生活について情報収集を行い、その特徴についてグループワークを通して考える。	川野・田村・八木・青木・市川・古島・鹿野・佐々木・路川・谷田部
3	へき地と地域住民の生活の理解(2)	【講義・演習】臨地演習施設とその地域に関する情報収集および調べ学習を通して、各自の興味関心をもとに学習目標を設定する。	川野・田村・八木・青木・市川・古島・鹿野・佐々木・路川・谷田部
4	へき地と地域住民の生活の理解(3)	【演習】国内外の臨地演習施設とその地域に関する事前学習を共有・質疑応答し、臨地演習施設の理解を深める。グループワークを通して地域特性と生活の関連について考える。	川野・田村・八木・青木・市川・古島・鹿野・佐々木・路川・谷田部
5～13	臨地における演習 へき地における看護実践 保健医療福祉活動の見学・体験	【演習】国内外の臨地演習施設において、学習課題の達成と自己の学習目標の達成を目指して学習する。  (おもな演習内容)出張診療、巡回診療、訪問診療、訪問看護、居宅介護支援、デイケア、訪問リハビリテーション、レクリエーションの見学や体験等	川野・田村・八木・青木・市川・古島・鹿野・佐々木・路川・谷田部
14～15	へき地の看護実践の実際と住民の生活との関連	【演習】演習での学びを整理する。演習での学びを報告し、へき地での看護職の役割について討議し、演習の学びを整理し、今後の自己の学習課題を考える。	川野・田村・八木・青木・市川・古島・鹿野・佐々木・路川・谷田部

教科書	指定なし	参考書等	なし
履修条件	なし	評価方法	1. 事前課題(20%) 2. 臨地演習記録(20%)、臨地演習参加態度(20%) 3. 事後課題(40%) 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	受講者はへき地等の看護に興味を持っている学生である。1～4回および15回は学内、5～13回は臨地にて実施する。【予習・復習について】学習進度に合わせて目的・目標を達成するための自己目標を立てる。事前に臨地演習施設一覧により各臨地演習施設の所在地や演習内容を把握して臨む。学習課題ごとに、指示した内容について、予習・復習を行う。演習では、アクティブ・ラーニングを活用して行う。予習復習時間は12時間以上。		

